



特集

自分らしさを見つける —できることから一歩ずつ—

- ・ するのもされるのもお互いさま
- ・ 子育てに必要な情報を自分たちの手で
- ・ 誰かの役に立ちたい!!
- ・ “おしゃれ”を通して生き方を考えたい
- ・ 自然体の会社をつくりたい
- ・ 働くことも楽しみにかえて

● 日本女性会議 '97おかやま シリーズ第4回

OKAYAMA

1998.3

vol. 14

DUO

[デュオ]



自分のやりたい仕事に力をふるい、生活できる収入を得ることは、
自分らしく生きる上で大切な要素のひとつです。

仕事の幅を新しい方向に広げたり、
あるいは自分で会社を始めようとしていたり。

新たな一步を踏み出そうとしている3人の女性からお話を伺いました。

“おしゃれ”を通して生き方を考えたい



藪木教加さん

美容室を経営するかたわら、カルチャースクールのセンスアップセミナーや色彩基礎講座など各種学校の講師をつとめる。このほど『らみいかの会』（イタリア語で“女友達”の意）を発足。主に40代～50代の女性を対象に、おしゃれを通じて、ひとりの人間として生きることを楽しむ場を提供。ボランティアでこども銭太鼓同好会の代表もしている。

カラリストとして活躍する藪木さんは、長年美容師として積んだ経験をいかして、女性の生き方を見つめ直す機会を提供しようと考えている。「女性の40代、50代は迷いの生じる時期。人生の後半を生き生きと過ごせるかどうかの分かれ目でもありますよね」身体の変調や不安感、今までの生き方に対する疑問など、そんな悩みを“おしゃれ”を楽しむことで吹き飛ばしてしまおうと、同年代の女性たちを集めて『らみいかの会』を発足した。

「大切なのは自分に似合う色を見つけること。それが分かると堂々と服を着ることができる。精神的にも安定するし、自分という殻を破るきっかけにもなります」カラーやおしゃれは娯楽

ではなく、生き方そのものに関わってくる重要な要素なんだと藪木さんは力説する。「お金をかけると言っているのではないんですよ」そう言って、1000円のハギレでつくった簡単なスカーフをサラリとジャケットと組み合わせ、2万円のブラウスに見せるテクニックを披露してくれる。「年齢に応じてなんと言わないで、常に『今の自分に似合うおしゃれ』を一緒に見つけていきましょう」

いろいろな分野の人達と協力しながら、色が人の心をどのように癒せるかという研究・実践も行い、仕事の幅を広げ始めた。藪木さんのライフワークは着実に一步を踏み出している。

自然体の会社をつくりたい



吉岡モナミさん

吉岡さんは、市内の自宅に「MONAMI」をひらき、レースをつかったインテリア製品を中心に、デザインから製作までを手がけている。3月にはデパートの手づくりショップへの出店が決まって、その製作に多忙をきわめる。

仕事場の隣の応接間には、レースのソファカバー・テーブルセンター・スリッパなど吉岡モナミさん手づくりの製品がいっぱい。現在は、知りあいの美容院や化粧品店で委託販売し、大変好評で頼まれて製作することが多いそうだ。

数年前は、ふつうの主婦。姑を世話しながらミシンで内職をしていたが、「自分の感受性を大切にしたい」と広島島の洋裁学校「ウェディングドレス研究科」で学びなおした。その後、結婚式場のドレスの注文を下請けの形で量産した時期もあったという。

けれども、「会社組織にしたい」というきっかけは、「娘とその友人達が大学卒業後、就職難に直面して心を痛めた。こんなやさしい人達が夢をもっ

て働ける、ストレスのない家庭のような仕事場ができた」と気負いもなくさらっと話す。昨年2月、姑を送り、初孫誕生。「これまで自分のまわりの人達を大切に生きてきた。自分も生かされてきた。自分の力だけではない。自然体でいきたい」と決心がついた。すでに娘の方は、育児をしながら仕事を手伝っている。「大げさかもしれないが、21世紀に向けて、いやいや働くのではなく、やりがいのある会社にしていきたい。たとえ苦勞が多くもうけは少なくても、仕入先から販売先まで喜んでもらえる、人間同士のつながりを大切にしていきたい」笑顔のなかに強い意志がうかがえた。

働くことも楽しみにかえて



森下千里さん

16年位前から天然石や真珠などのアクセサリ作りに取り組む。岡山市在住のまま仕事の本拠を東京におく。森下さんの指導でスタッフの作品も全国通販誌で次々に商品となっている。彼女の元気の素は“自然観察”。

好きで始めたアクセサリ作り、地方で仕事をしていても中央でその成果を出すことの喜びは大きいと言う。そして何事にも根底に“日本の中の岡山”を考えているとも。「スタッフ達も手間仕事としての内職にとどまらないで、すこしでもやりがいを持って作る喜びを味わってもらいたくて。彼女達の技術と人の輪を通して地域のみんなに本物指向のアクセサリ作りを楽しんでほしいから」と起業（会社組織）を決意した。

しかし、起業というのは自分のごく一部であると断言。「何でも片寄りたかないんです。趣味もおつきあいも。いろんな情報源を人それぞれ持っている。人々の触れ合う

場に自分も関わっていくことで更に輪が広がったり楽しめたり、そうすることがうれしいんです」と森下千里さんは強調する。

起業をめざす男性達が採算性と競合相手に頭を抱えるのをみて、女（私）との違いに気づいたという。「自分では企業としてはみてはいないんです。皆で楽しもうよ！という発想なんです。私達は好きでやっているのだから利益はそこそこで……。競合相手があるからこそ独自性も出しやすい。私だったら相手と友達になっちゃうかも……」と笑顔で話がはずむ。「これから会社を始めようって時に本人が楽しく元気でなくちゃ、スタッフの人達も楽しくないじゃない。(笑)」

Information

創業支援塾

新しく事業を興したい人を対象に、公認会計士や司法書士など専門家がレクチャーし、事例をもとに学習していく。広告宣伝の実務、雇用に伴う労務手続、開業に必要な税の知識などについて学ぶ他、最近開業した人から体験談を聞き情報交換する講座もある。3月開講の塾の場合、夜2時間半程度を月4回。定員15名で、参加費は1講座1000円（資料・飲み物代を含む）。この他、創業支援センターでは相談事業やセミナーも実施している。

問い合わせは 岡山商工会議所創業支援センター
(☎ 232-2266)

岡山市起業家塾

事業をこれから開始する人、開始しようと考えている人を対象に、事業開始に伴う経営、財務、商品開発、その他について中小企業診断士などが講師として指導。最終的には受講者が具体的な事業計画を作り、助言を受ける。毎月1回程度で夜2～3時間を5か月間。定員は15人以内で固定制。受講料は無料（教材費実費）。（以上平成9年度実績）平成10年度も起業家塾は実施予定。

問い合わせは 岡山市中小企業振興室
(☎ 225-4211内線4513)

● シリーズ ●
**日本女性会議'97
 おかやま**

第4回

昨年の10月23日・24日、岡山シンフォニーホールを主会場に、「自分らしく生きられる社会に！」をテーマとして日本女性会議'97おかやまを開催、全国から3000人を超える参加者を迎えました。

10/23 (金)



開会式



田嶋陽子さんの基調講演
「女たちは、今」



女たちの手づくりミュージカル
「ウィメンズ・ギャザリング」



8つの分科会に分かれて討論



夜は交流会とアフターパーティーを開催

10/24 (土)



全体会（パネルディスカッション）、テーマは「社会を動かす女のエンパワーメント」。コーディネーター上野千鶴子さん、パネリスト伊田広行さん・船橋邦子さん・三井マリ子さん。会場からも数多くの発言。



閉会式、「'97おかやまアピール」を採択



次期開催市は尼崎市

週間行事を開催し、市民の関心を集めました。



「パネル展」
 -岡山の歴史をつくる女たち-
 -グループ活動-



「街角ウォッチング写真展」
 -表現された女-



「映画祭」
 -シネマと世界の女たち-

ポスト会議を11月29日に開催、新たな出発を確認しました。



シンポジウム



会場発言

'97おかやまアピール

日本女性会議'97おかやまは、「自分らしく生きられる社会に！」をテーマに、「男女共同参画2000年プラン」を受けて、10月23日・24日の2日間にわたり熱い討論を繰り広げました。
 この会議の成果を各地に持ち帰り、真の男女平等に向けて行動していくために、次のことをアピールします。

- 1 少女たちが自立した人間として育つために、人権意識に基づいた男女平等教育を進めましょう！
- 2 からだや性について女性たちが語り合える場をつくり、女性の健康を保障する法律をつくっていきましょう！
- 3 女性への暴力は重大な人権の侵害です。身近に起きている女性への暴力から目をそらさず、自分の問題として考えていきましょう！
- 4 男女が家庭にも仕事にも責任を持ちながら、共に人間らしく働ける社会をつくるためにILO条約の批准と遵守を進めていきましょう！
- 5 女性が個人として自立できる社会を実現するため、現行の法律や制度を見直し、政策・方針決定への女性の参画を進めましょう！
- 6 高齢になっても、最期まで尊厳をもって生きるために、行政と共に暮らしやすい社会を実現させましょう！
- 7 アジアに生きる女性たちが対等な立場で支え合い、「平等・開発・平和」の課題を解決するために行動しましょう！
- 8 多様な表現方法で「これが女！」という声を発信していきましょう！

「デュオ」読者アンケート

- 1 これまでの「デュオ」で関心のあったテーマは？
- ① 「自立」を模索する人々 ② 女のからだ・こころ
 ③ 「転勤」って、なあに？ ④ 自分らしさを見つける
 ⑤ シリーズ日本女性会議 ⑥ 用語解説・ビデオ紹介
 ⑦ その他 ()
- 2 今回の「デュオ」はどうでしたか？
- ① おもしろかった。 ② ためになった。
 ③ わかりにくかった。 ④ その他 ()
- 3 今後取り上げてほしいテーマは何ですか？
- 4 「デュオ」編集委員会へのご意見をお願いします。

NPO

(Non-Profit-Organization)

民間非営利組織。設立主体は行政機関や営利企業の主導ではなく、不特定多数のものの利益の増進に寄与することを主たる目的とする、非営利の「社会に開かれた自由な社会貢献活動」を行う市民の事業体である。

保健・医療・福祉、社会教育、まちづくり、文化・芸術・スポーツ、環境保全、災害時の救援、地域安全、人権擁護・平和推進、国際協力、男女共同参画社会の形成の促進、子どもの健全育成を図る活動と、それらの運営などを支援する団体である。

わが国のNPOは法人格を取得することがむずかしいため、資金集めや税制などの点で制約があり、欧米などと比べ活動範囲が著しく小さいことが指摘されており、改善に向けて特定非営利活動促進法（NPO法）が平成10年3月19日成立した。

きりとり線
郵便はがき

700-8790

215

料金受取人払

岡山中央局
承認
7034

差出有効期間
平成10年4月
1日から
平成11年3月
31日まで

岡山市大供一丁目1番1号
岡山市女性政策課内
デュオ編集委員会 行



★アンケートにご協力下さい（○をつけて下さい）

性別	①女性 ②男性
年齢	①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代以上
デュオを見たのは	①はじめて ②2回目 ③3回目 ④4回目 ⑤その他 ()
入手先	①市役所・支所 ②公民館 ③図書館 ④理美容店 ⑤その他 ()

ビデオ紹介

「ファイブ・ミニッツ・プロジェクト」

5分間で見る世界の女性

1995年8月、第4回世界女性会議（北京）に向けて「女性とメディア」に関わる女性たちによる一大プロジェクトが企画され、実現した。21か国の女性プロデューサーが、世界女性会議の主題である「平等・開発・平和」をテーマに各国のホットな女性問題を5分間で描いている。世界初の、女性による、女性のための、女性問題をテーマにした映像メディアの発信である、日本は「ヒロシマの50年」で、原爆の惨禍を次世代に語り継ぐことで生き残った女たちが心の傷をいやしていく様子を描いている。

Part1 アジア 33分

(インド、カンボジア、日本、台湾、フィリピン、スリランカ)

Part2 北米・南米 23分

(ペルー、カナダ、アメリカ合衆国、コロンビア)

Part3 ヨーロッパ 33分

(オランダ、ギリシャ、ドイツ、ウクライナ、フィンランド、スコットランド)

Part4 アフリカ、オセアニア 26分

(ニュージーランド、ザンビア、クック諸島、ウガンダ、カメルーン)



編集後記

新しい試みとして、左記のようなアンケートを実施します。あなたのご意見・ご感想をお待ちしています。ぜひご協力ください。

デュオ編集委員募集

新しい編集委員体制でデュオをつくって早2年、4号目を迎えました。次号からは、また新たな編集委員を募集し再出発します。男女共同参画社会に関心を持ち、企画・編集に熱意をお持ちの方、デュオを作ってみませんか。ふるってご応募ください。

対象 市内在住で平日の月1～2回、3時間程度の編集会議に参加できる人（男女は問いません）

定員 5名以内

謝礼 1回発行につき2万円

応募方法 応募の動機を400字詰原稿用紙1枚にまとめ、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記し、「〒700-8544 岡山市大供一丁目1-1 岡山市女性政策課」へ。応募者多数の場合は選考します。

締切 4月24日（金）（当日消印有効）

問い合わせ 岡山市女性政策課
☎ (086) 225-4211（代表）